

12月29日(月)

聖なる神殿

聖書朗読 I列王記 3:1~15

イエスは彼女に言われた。「わたしの言うことを信じなさい。あなたがたが父を礼拝するのは、この山でもなく、エルサレムでもない、そういう時が来ます。」

ヨハネ 4:21

私たち人間にはどうも、手に取ったり、触れたりできるものを好む傾向があるようです。実際に足を運ぶことのできる特別な場所や手に持つことのできる物を欲します。贈り物にしても、実体のある「物」を贈りあうことで人との結びつきをより確かなものにできると錯覚しがちです。結婚指輪などもその例で、物が何か特別な事柄を表しているように思えます。しかし、結びつき自体よりも、贈り物それ自体やそれが贈られた場所の方が重要に思えてくると問題ですね。

ソロモンと神の民にとって、神殿は神とともに在り、礼拝を捧げる大切な場所でした。そのため、ソロモンは神殿の建設のために大変苦心しました。しかし、神殿が建てられるまで、多くの民衆はほかの神々のもとにいけにえをささげてしまいました。彼らには、神との結びつきよりも、いけにえの方が大切になってしまったのです。

今日では、私たち自身が神殿とされました(Iコリント3:17)から、私たちは、どこにいても、神様に礼拝を捧げることができます。私たちは、神様との関係性や結びつきのほうが、いけにえや礼拝を捧げる場所よりもずっと大切であることを覚えます。神様は、私たちから捧げられるどのような金銀や品よりも、私たちの心の在り方とご自身との関係を大切になさってくださいます。

讚美歌 352

祈り 愛します主。イエス様をおおくりくださいましたこと、そして御霊と真実によってあなたに礼拝する術をお与えくださいましたことに感謝します。

イエス様のみ名を通して。アーメン

シェリー・リームス
テキサス州 ラボック

今日の方

2014年12月29日～
2015年1月4日

翻訳 箕作玲子

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

12月30日(火)

従いなさい

聖書朗読 II列王記 5:1~14

もしあなたがたがわたしを愛するなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。

ヨハネ 14:15

我が家の冷蔵庫の扉には、次の言葉の書かれた紙を貼っています。

—「ただちに従いなさい。最後まで従いなさい。喜びをもって従いなさい。」—

これはもともと我が家の約束事として、子どもたちに、言いつけに従う重要性を教えるために貼ったものでした。しかし、この三つの言葉が私たちの信仰生活の上でも含蓄のあるものと気づかされるまでそう長くはかかりませんでした。

「ただちに従う」ことで神様が心に呼びかけて下さる時に、後回しにしないで従うことを教わります。服従、つまり従うことは私たちがイエス様に似せて下さるために神様が用いて下さる訓練です。呼びかけにすぐに従うことは、神様のみ力とみ心に素直に心を開くことにつながります。

「最後まで従う」ことは神様の御意(みこころ)が為されるまで従順の道を歩むことを教えられます。神様が与えて下さる奉仕を最後まで成し遂げないと得られない教えやみ恵みがあるものです。

「喜びをもって従う」ことは、行動のみならず、心の在りようや態度まで含めて従うことを学ばせて下さいます。神様は、ご自身を愛し、信頼する者から溢れるような従順さをお喜びになります。

本日の聖書箇所が登場するナアマンはエリシャを通して与えられた指示に最後まで従った時に初めて癒されました。癒しや変化、み恵みは、謙虚に主に従うことで豊かに与えられるのです。

讃美歌 365

祈り 愛します天のお父様。あなたにただちに、最後まで、そして喜びをもって従えますようにお力をお与えください。イエス様のように従順でいられますようにお助けください。

イエス様のみ名を通して。アーメン。

カサンドラ・マーティン
テキサス州 スプリング

12月31日(水)

耳を澄まして

聖書朗読 I歴代誌 14:13~16

天が地よりも高いように、わたしの道は、あなたがたの道よりも高く、わたしの思いは、あなたがたの思いよりも高い。
イザヤ書 55:9

私は記憶に残っていない聖句を見つけるが楽しくてなりません。本日の聖書箇所もそんな再会を経て気に入ったものです。この聖句はふと目に留まったものですが、よく読むと耳をそばだてたくなるような、楽しいものです。

本日の聖書箇所ではダビデがペリシテ人への攻撃に関して神にお伺いを立てます。『バルサム樹の林の上から行進の音が聞こえたら、そのとき、あなたは戦いに行け。神はずでに、ペリシテ人の陣営を打つために、あなたより先に出ているから。』と神はお答えになります。

ちょっと想像してみてください。林の上の行進なんて、どんな音がするでしょう。ダビデと兵たちが耳を澄ましている間、陣営では言葉を発する者はいなかったのではないのでしょうか。神の行進の音をじっと待ち侘びつつ、行進の姿を見られるかもしれないと、樹上を何度も見上げる者もあったかもしれません。ダビデと兵たちは神のみ業をひたすら待っていました。林の上を行進できるなんて、神のほかにはいませんね。

こうした神の少し風変りな指示に従い、ダビデとその軍はペリシテ人の陣営を打ちました。彼らの勝利は変わった指示に従うことでもたらされました。現在の私たちには奇妙に感じられる指示ではありますが、とにかく、勝利をもたらしたことに違いないものです。

讃美歌 3

祈り 天にまします神様。あなたを表すにも、言葉が足りません。それでも、私たちがよく理解し、御許に招いてくださり、愛して下さることに謹んで感謝申し上げます。

イエス様のみ名を通して。アーメン。

トレイシー・ホーン
テキサス州 アバーナシー

1月1日(木)

決断を迫られた時

聖書朗読 エズラ記 4:1~5

すると、その地の民は、建てさせまいとして、ユダの民の気力を失わせ、彼らをおどした。
エズラ記 4:4

この文章を読んでいるあなたは、今日もたくさんの選択をすることになるでしょう。食事をどこにするか、誰と共にするか。何を着て、誰に電話をかけるか。

人生における大きな決断を迫られることもあるかもしれません。そんな時には、誰、否、どなたの助言に従うべきか分かっていると助かりますね。求めもしないのに多くの忠告や意見が目や耳に飛び込んできます。テレビ番組や友人、親戚、新聞記事、インターネット、フリーダイアル等々。こうした助言のほとんどは無料で提供されますし、提供する人々の多くも誠実で愛情深いものです。しかし、残念ながら、善意から与えられた意見だからと言ってそれが必ずしも良い結果を生むとは限りません。

本日の聖書箇所にてイスラエルの民は敵からの支援を受け入れるべきかどうかの決断を迫られました。彼らは賢明なことに、支援を拒否します。短期的に見れば、支援は時間と資金の節約になったかもしれませんが。しかし、敵からの支援は主の御意(みこころ)に適わなかったのです。では、今日の私たちはどうしたら、他者の助言が役立つものであるか判断できるでしょう。もし、迷いの中にあるのなら、イエス様の山上の垂訓(マタイ5~7章)を是非読んでみてください。そして、聡明な判断ができるよう、主に祈りましょう。そこで再度懸案の助言について熟考してください。助言が神に栄光を尽くすものだと判断出来得るならば、自信をもって受け入れて良いものでしょう。

讚美歌 第二編 186

祈り 愛するお父様。今日、正しい決断をすることであなたに栄光を帰することができますようにお力をください。私たちはみ言葉にある知恵と御霊のお力を必要としています。

キリストイエスのみ名を通してお祈り申し上げます。アーメン。

ロバート・ブレアー

アイオワ州 クレグホーン

1月2日(金)

故郷を愛する者

聖書朗読 ネヘミヤ記 1章

兄弟たち。あなたがたのことについて、私たちはいつも神に感謝しなければなりません。そうするのが当然なのです。なぜならあなたがたの信仰が目に見えて成長し、あなたがたすべての間で、ひとりひとり人に相互の愛が増し加わっているからです。

Ⅱテサロニケ 1:3

今回ネヘミヤ記第一章を再読していると、ネヘミヤの人格の今まで気づかなかった面に出会い、感銘を受けました。これまで私は、ネヘミヤを粘り強い政治家としてとらえていましたが、ここには一人の繊細な人間としての彼の姿があります。

エラム、シュシヤンの城主アルタシャスタ王の忠実な臣下として仕えていたネヘミヤはユダからの訪問者があると、すぐに故郷の様子を尋ねました。彼らは『あの州の捕囚からのがれて生き残った残りの者たちは、非常な困難の中にあり、またそしりを受けています。そのうえ、エルサレムの城壁はくずされ、その門は火で焼き払われたままです。』と答えます。

これを聞いてネヘミヤは『すわって泣き、数日の間、喪に服し・・・』たとあります。嘆き、喪に服している間にも、ネヘミヤの中にある決心が形作られつつありました。そしてネヘミヤは『断食して天の神に祈って』この決心の如何を神に問います。神がネヘミヤの計画を祝すと、繊細なネヘミヤは一躍、行動に移りました。

ネヘミヤがいかにしてアルタシャスタ王や目上の人たちの支持を得、自らに賛同する民、築く者を招集し、心無い敵のあざけりに耐え忍んで、エルサレムの城壁の再建を成し遂げたかは、クリスチャンにはなじみ深い話です。今も繰り返し考えられるネヘミヤ記の思想に次のようなものがあります。神の恵みの御手はいつも私たちの上にある、ということです。

讚美歌 298

祈り お父様。あなたの御手が私たちの上にもありますように。

キリストを通して。アーメン。

ロバート・W・ローレンス
ネブラスカ州 ヨーク

1月3日(土)

再 建

聖書朗読 ネヘミヤ記 8:1~9

・・・そこで私は、天の神に祈って、・・・「私をユダの地、私の先祖の墓のある町へ送って、それを再建させてください。」
ネヘミヤ記 2:4~5

ネヘミヤはエルサレムが破壊されたことで打ちひしがれていました。彼は神に祈りを捧げ、次いで王に城壁の再建の許可を求めました。神は祈りにこたえ、再建への道を整えて下さいました。多くの障害を乗り越え、再建にたどり着いた人々は成功を喜びました。そして、民が耳を傾ける中、エズラが律法の書を朗読しました。

さて、私たちにも、再建すべきものがあるのではないのでしょうか。周囲に希望や信頼をなくしている人もいるのではないのでしょうか。新しく出会いをもたらされた人が、話に耳を傾けてほしいと願っているかもしれません。エルサレムの城壁の再建が容易ではなかったように、他者の話に長時間付き合うことも容易ではないかもしれません。しかし、話を聞いてもらう、耳を傾けてもらう、ということは、話す側の人生を再建する手助けとなります。一人一人の人生の再建には長い時間と忍耐を要します。愛をもって耳を傾けてもらうことで、負った傷を癒し、再建への力をもらうこともできるのです。

ネヘミヤはエルサレムの再建の機会を得られるように祈りました。エズラは再建に尽力し、祈りに報いてくださった神の誠意を賛美しました。そして民は神のみ言葉をじっくりと聴きました。将来への希望と信頼が大きくなったのです。

壊れ、傷ついた何か、あるいは誰かの「再建」に関われるように祈りましょう。重荷を負った友人の話に耳を傾ける時間をとりましょう。誰かの心の再建にたずさわることが神様のご計画かもしれないのですから。

讚美歌 390

祈り 愛しますお父様。心に重荷を抱え、話を聞いてほしいと願っている人の助けとなれますように、どうぞお力をください。

イエス様のみ名を通して。アーメン。

ベティー・S・ベンダー
テネシー州 コロンビア

1月4日(日)

隠された恵み——禍転じて——

聖書朗読 ヨブ 42:10~16

私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。

ピリピ4:13

私は脳卒中からの快復の過程で、与えられた試練を受け入れること、そして信頼について、多くを学ばされています。脳卒中なぞ、当初は禍と受け止めていましたが、実際には人生に好機をもたらされたと感じかされます。自身や神を責めるのはやめ、いまでは脳卒中のみ恵みと受け止めています。できないことが増えたことで、できることを最大限に生かすようになりました。

快復の途上にある現在、きつい作業や仕事ばかりで予定にいっぱいにすることはできません。要所要所に休息の時間を確保し、身体をいたわらなくてはいけないのです。自由な時間が与えられた訳ですが、この一部を祈りや黙想にあてています。残りの時間は福音をひろめるために、メールを打つことや、フェイスブックに投稿する文章の執筆にあてるようにもしています。

思いついた事柄や新たな自由時間を活かせる場を求めていると、主のメッセージで喜びに満たされたパウロの思いを実感できるかのようです。すなわち、『わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである』(II コリント12:9)

主はわれらの希望 喜びのうちにも 試練のうちにも われらの希望
小さき悩みも重き悩みも 全ての重荷 主にあずけよ
絶えず浮かぶおそれから 忍び寄る不安から 主はわれらを救い出して下さる
うなだれた頭を正して下さる
—— T.O. チゾルム

讚美歌 520

祈り 愛なるお父様。隠されたみ恵みに気づかせてくださり、感謝申し上げます。あなたのみわざとメッセージを理解できるようにお力をください。あなたのみこころを、私たちが平安な心、感謝、そして理解をもって受け入れることができますようにお導きください。

イエス様のみ名を通して。アーメン。

S. ビル・ジミネズ
カリフォルニア州 サンフランシスコ